

**令和3年度
浦添市まちづくりアカデミー**

事業報告書

**令和4年1月
市民協働・男女共同参画課
(一般社団法人 まちづくりうらそえ 作成)**



目次

1 アカデミー開設の経過と実施状況	1～2
2 目標の達成状況	2
3 チラシ及び講座内容・日程	3～4
4 講座の記録	5～23

【参考資料】

第1回 鼎談 テープ起こし	24～35
浦添市まちづくりアカデミー実施要綱	36～37
令和3年度浦添市まちづくりアカデミー定期講座実施要領	38～39

1 浦添市まちづくりアカデミー開設と実施状況

(1) 開設の経緯

本市では、平成30年3月に策定した第四次浦添市まちづくり生涯推進基本計画において、『まちづくり協働』による『共生・循環型社会』の実現』を取組方針として掲げ、『『ただこ市民大学』の拡充と講座の充実』を取組内容の一つとした。

平成30年度、「ただこ市民大学」における10年間の実績を踏まえ、まちづくり協働に必要となる知識及び手法を実践的に学ぶ「大学院」について検討した結果、令和元年度に「浦添市まちづくりアカデミー」として開設することとした。

そして令和3年度、「第2回浦添市まちづくりアカデミー」が、民間団体である「一般社団法人まちづくりうらそえ」の受託により、浦添市と協働で開催された。

(2) 実施状況

令和3年9月8日から月2回、12月1日までの全7回、『私がまちを輝かせる』をテーマに、まちづくり生涯学習と市民協働の推進を図るため、市民が市民協働に対する理解をより深め、その取り組みに必要な知識及び手法並びにその実践について学ぶことを目指した。

受講対象者を、まちづくり生涯学習及び市民協働に関心のある方、まちづくりに取り組む意欲のある方とし、定員30名に対して25名の応募があり、20代から70代の幅広い年代の方が参加した。

企画当初、全講座対面での開催を予定していたが、コロナ禍の感染予防のためリモート開催となり、25名の受講者への配信に試行錯誤を繰り返した。受講者によっては、PC 設備がなかったりネット環境が整っていない等、まずは受講環境を整えるところから始めなければならなかった。7回の講座中前半の4回目まではリモートであったが、コロナ禍が多少収まってきた 5 回目の視察交流以降は、対面開催で受講者にとって充実した講座になったと考える。

終盤に入った6回目、受講者それぞれが考える、「浦添市の課題」をどのように解決していけるか、ペアワークの発表を板書してもらい「ことばの見える化」を図った。最終回の7回目は、市役所1階ロビーで講座の経過発表と、市民活動クリニックを行った。

ア 期間及び講座数

令和3年9月8日～12月1日 全7回(鼎談、講義、ワークショップ他)

※初回から4回まで新型コロナ感染拡大防止の観点によりリモート形式

※5回、6回対面形式、7回目浦添市役所1階ロビーで展示発表及び市民活動クリニック

イ 受講者の年代別人数及び平均年代

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年代
人数	3	6	9	1	5	1	25	40代

(単位:人)

ウ テーマ、目的と目標

【テーマ】

『わたしがまちを輝かせる』

～私も参画したい浦添市の地域協働の取り組みとしくみ～

【目的】

- ① まちづくり協働に必要となる実践的な知識及び手法を知ること。
- ② 市民の視点で地域を知り、課題解決に向けて実践できるようになること。
- ③ まちづくり協働に取り組む者と連携することができるようになること。

【目標】

- ① 受講した市民が協働によるまちづくりに積極的かつ効果的に関わること。
- ② 受講した市民が地域の課題を自らの問題として捉え、まちづくり協働に取り組むことができるようになること。
- ③ まちづくり協働を理解し、取り組む市民の連携が構築されること。

2 目標の達成状況

受講者アンケートより、市民協働の地域づくりに関心がある方や、浦添ならではの活性化を図ることに参加できればと考えている方、楽しみの声が多くあり積極的な参加が伺えた。情報共有・関係性の構築・対等性など受講者自ら分析し「じゃあ何をすればいいの？」と気づきや学び、行動することの意義を考える受講者もいた。

SDGsを取り上げたワークショップ(講師:幸喜穂乃氏)では、受講者それぞれが関心のある社会課題、地域課題を言語化し、6回目の対面講座の時には課題に対する解決策を更に文字として見える化(講師:宮道喜一氏)した。そのことによりこれからの活動に意欲が湧いてきたという受講者もおり、参加者全員がそれぞれに感じる課題の共有により、今後の活動に生かされるような情報交換が受講者間で行われ、連携していく場面がみられるようになった。最終講座には積極的に市民や行政職員に声掛けをして、アカデミーの取り組みや協働することの大切さを話していた。

閉講式では受講者により「活動資金を来年のまちづくりプランに応募して獲得したい」と、決意表明も行われ、拍手喝さいで締めくくられた。

以上の事から、まちづくり協働に必要な知識及び手法を学び受講者自ら取り組む、きっかけが出来たと考え、講座の目標を達成したと思慮します。



応募締め切り：令和3年 8月4日（水） 17時まで

まちづくりアカデミーについて

まちづくり生涯学習と市民協働の推進を図るため、市民が市民協働に対する理解をより深め、その取り組みに必要となる知識および手法並びにその実践について学ぶ講座です。

受講料
5000円



＜対象＞

- ・本市のまちづくり生涯学習および市民協働に関心のある方
- ・本市のまちづくりに取り組む意欲のある方

浦添市まちづくりアカデミー申し込み用紙

フリガナ	
氏名	
住所	〒
連絡先	TEL
	E-Mail
志望動機	

※ お申し込みは、FAXまたはメールにて。詳細は裏面へー

2021年度 浦添市まちづくりアカデミー 定期講座

回	形態	日時	場所	講師	講座内容
第1回	開会 講話 (鼎談)	9/8 (水) 19時~21時	ハーモニー センター	松本 哲治 浦添市長 前城 充 氏 (与那原町政策調整監) 大城 喜江子	オリエンテーション そもそも協働ってなんだろう？ 市長と充と喜江子の協働鼎談
第2回	講話	9/22 (水) 19時~21時	ハーモニー センター	宮城 仁太郎 氏 野口 萌香 氏 (Bee Free)	若者が取り組む地域協働の活動 (若者が抱える問題の 取り組む事業展開！)
第3回	ワーク ショップ	10/6 (水) 19時~21時	ハーモニー センター	合同会社 Happy joy ヒトコト専門家 代表社員 幸喜 穂乃 氏	地域課題に気付いた時 その時どうする？ みんなで考えよう！ 一緒に動き出そう！！
第4回	講話	10/20 (水) 19時~21時	ハーモニー センター	一般社団法人 まちづくりうらそえ 代表理事 大城 喜江子	協同・共同・協働 地域と一緒に考え行動する 防災訓練
第5回	講話 視察 交流	11/7 (日) 10時~13時	なは市民 協働プラザ	鏡波 正博 氏 知念 忠彦 氏 (なは市民協議会) 渡嘉敷 博美 氏 (なは市民協働プラザ)	市民と行政の協働の取り組み なは市民協議会の発足と活動
第6回	ワーク ショップ	11/17 (水) 19時~21時	ハーモニー センター	松本 哲治 浦添市長 宮道 喜一 氏 (NPO 法人まちなか 研究所わくわく)	私も一緒につくりたい浦添市！ 市民と行政とともに！
第7回	活動発表 閉講	12/1 (水) 14時~18時	浦添市役所	前城 充 氏 大城 喜江子	6回目の講座発表展示 地域活動の相談コーナー

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などにより、日程及び講座などを変更する場合があります。

☎ お問い合わせ・お申込み ☎

主催：浦添市 市民協働・男女共同参画課
受託者：一般社団法人 まちづくりうらそえ

TEL：090-2512-3026 (大城)

FAX：098-874-7610

Mail：u.machiaca.03@gmail.com

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第1回

9月8日(水) 18時~20時
ZOOM開催

第1回講座 『そもそも協働ってなんだろう？市長と充と喜江子の協働鼎談』

講師：松本 哲治 浦添市長
前城 充 氏(与那原町政策調整監)



協働とは。。。

喜びや夢、楽しみだけでなく、
苦しみもハードルも限界も共有
しながら何かを作り上げていく
プロセスが本当の協働ではないか。
本音のトークができないと協働が
できないと思う。

協働のメリット(行政側として)

行政の方から住民の皆さんに
データなどを使って何度も
情報を共有することで、住民が
→知らなかったことを知ることが
出来る
→興味を持つ
→自分の経験値から意見を出して
くれるようになる。
→本人が成長していると感じる。
住民同士が意見を言い合って、
建設的な話ができるようになって、
まとまっていく。
その過程で、職員も成長していく。

協働したいときの心構えは？

市役所と協働したいときに、
市役所職員にも**メリット**が
あることを示せると
協働しやすくなる。



欲しい公共は自分で作っちゃおう！
(自家製公共づくり)



本の紹介

通常であれば、
行政が行う公共を
自分で作り上げている方の
本を紹介していただきました！



困りごとを減らして
それぞれの地域で暮らし
続けられるための、住民協働の
地域づくりに関心があり、
そのヒントの芽生えがあったように思います。



自分たちの
まちの
ことを考え、
自分たちで決め、
そして
自分たちで
行動する

地域で力を合わせていくことの
素晴らしさ、その仲間づくりや
繋がりのために、お互いが
理解しあう大変さを乗り越えて
いくことが大事なんだと思いました。

この街全体のこと、
未来のこと、
子ども達のこと等を
考える地域愛が
大切である

「マイパブリックとグランドレベル 田中元子著 晶文社」
(前城充氏から紹介)

第1回 浦添市まちづくりアカデミー アンケート結果
第1回目のアンケートは、15名の方から提出がありました。

1. 年代をお聞かせください。

20代：2名 30代：2名 40代：4名 50代：3名
60代：2名 70代：2名

2. この講座を何で知りましたか。

ネット：3名 チラシ：3名 友人：3名 広報うらそえ：3名
その他：3名

3. 講座の受講を決めた理由は何ですか。（複数回答あり）

興味がある：9名 講師がよい：7名 面白そう：2名 協働を知りたい：2名
友人に誘われた：1名 その他：0名

4. 感想

・松本市長、前城充さんのお話が大変分かりやすく市民として又我が地域でできること充さんが最後におっしゃられたまず動くことそしてあとで考える大変大事なことです。同感です。

・浦添市長 松本哲治さんの役所、職場の話が聞いていままでの市長、役所へのイメージが変わりました。批判や石を投げている人たちへのイメージ（見かた）も変わりました。

・松本市長や前城さんの貴重なお話が聞け、自分でできることから取り組んでいこうと思いました。

・市長さんはとても明るくて、話し方がわかりやすい。テーマはとても大切でした。

・良い！第1回目として、市と市民が協働していく課題が見えてきました。

・浦添市では初めての取り組みだと考えます。市民協働がスタートしたように思います。

・市長、職員、行政の立場のお二人のお話は、地域で力を合わせていくことの素晴らしさ、その仲間作りや繋がりのために、お互いが理解しあう大変さを乗り越えていくことが大事なんだと思いました。ありがとうございます。

・受講生に知人も多く「浦添をより良い街にしたい」と思う同志が多くいることを知り、励みになった。市長の意見充さんの経験など市政の経験談ではあったが、ほかの組織でも共通する考え方で、ためになった。

・今回講座に参加させていただき、市長のお話を聞かせていただく機会もあまりないので大変貴重な時間となりました。私は、浦添市にまだ今年参加させていただいたばかりですが、行政と市民との距離感がとても近く感じております。地域によって、さまざま異なることも多くありますが、浦添市ならではの独自路線で、活性化を図ることに参加できればと考えて

おります。

- ・生活に困っている人の相談センターで働いています。困りごとを減らしてそれぞれの地域で暮らしつづけるための、住民協働の地域づくりに関心があり、そのヒントの萌芽があったように思います。

- ・素晴らしい企画でした。こうした会を継続することで、行政内部も市民意識も変わってゆくことを実感いたします。現在、石川県の「シェア金沢」という日本版 CCRC～生涯活躍のまちづくりを学び実践しておりますが、前城さんの「つっぱして後ろを振り返ると誰もついてこない」を経験し、PDCA を繰り返し前進しているところです。大変勇気をいただきました。「あきらめず成功するまで続ける！」を心に。

- ・「市役所であれ、市役所職員であれ、この町で共に働き、共に暮らす仲間である」「この街の全体のこと、未来のこと、子ども達のこと、などを考える地域愛が大切である」「自分たちのまちのことを考え、自分たちで決め、そして自分たちで行動する」

- ・・・協働のイメージとしての入門講座として、解りやすい講座でした。

○浦添市としてSDGsへの取り組み現況は興味がある点でしたが、直接、市長から現況説明及び今後の取り組みへの姿勢を聞ける機会に出会えたことに、この講座の魅力を感じました。

- ・住民参加に必要な要素、(情報共有・関係性の構築・対等性)の大事さを改めて確認できました。前城さん「島袋さんとの出会いをきっかけに勉強・行動をされてきたお話」に共感しました。私自身もこれまで、個人的な関心事を中心に生活をしてきましたが、子を持つことになったり、地域とのかかわりができることでみんなのこと(公共)に少しずつ関心が生まれてきています。今回、アカデミーを受講したのも、「協働」について言葉は聞いたことはありますが、「じゃ、何をすればいいの？」と気づきや学びを求めてのことでした。本日の開校講座からも多くの気づきがありました。松本市長の、地域の「前城さん」行政の「前城さん」を見つけるというお話にも賛同します。

アカデミーに市職員も受講されていることはいいなと思います。最近お話を伺う機会のあった佐賀県庁「デザイン課」のお仕事が面白かったです。行政では多くの仕事を抱えていて、誰が何をやっているのかが職員同士でもわかりづらい、それを「可視化」する課だそうです。例えば、二つの課が同時にかかわる案件の間に入り、市民との協働をサポートしたり、外部の識者とコーディネートしたりしてスムーズに作業を進めていくお手伝いをするそうです。市民の側にも地域の色々な課題を「見える」ようにしたり、「これは誰々さんに繋げばいいな」みたいに動く人がいるといいかもしれませんね。市民性教育(Citizenship Education)は初めてきく言葉でした。簡単に検索結果を見ただけですが、そういう教育はこれまで受けてきていないように思います。アカデミーを通して様々なことを学んでいけたらと思います。

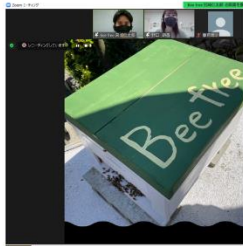
- ・市民と協働して総合計画？を作ったということですが、実際どうということなのか私は勉強不足でよくわかりませんでした。まだまだ勉強不足でわからないことばかりでした。また次回よろしくお願ひします。

- ・市長、講師の前城さんの苦労話も聞いてよかったです。今後も、いろいろな分野で取り組まれている講師の登場を楽しみにしています。

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第2回

9月22日(水) 18時~20時
ZOOM 開催

第2回講座 『若者が取り組む地域協働の活動
(若者が抱える問題の取り組む事業展開)』



Bee freeの目的

- 就労のきっかけづくり、あるいは、ハチミツ作りがその方の仕事になれば
- 多様な人材が地域で活躍できる場づくり

講師: 宮城 仁太郎 氏 (Bee Free)
野口 萌香 氏 (Bee Free)

ひよっこリゲスト:
又吉 盛太 氏 (小禄南公民館)

モットー

- ① 楽しく
- ② 気楽に
- ③ ゆっくりと

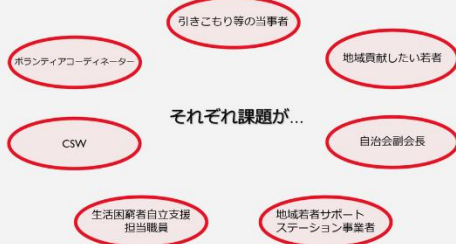
※あくまで当事者のペースを配慮



引きこもりの当事者も参加していて、当事者から『はちみつを作りたい!』と声が上がった。
当事者の方は自分の言ったことに責任をもって、活動には必ず参加している。



構成メンバー



誰とやるかが大事!
一緒に活動する人をどう選ぶのか?

- 話してみてフィーリングが合うかどうか
 - やる事業によって誰とやるかは変わる。
- お互いWin-Winの形になるような人達を巻き込んでいきたい
- 優しい人と一緒にやるのがいい

社会とのつながりを失い、孤立する若者の自立や地域のつながりの構築を目指す。そのため、CSWやサポステなどを構成メンバーに入れている。

- それぞれの課題 ○
- 当事者—コミュニケーションがうまくとれない
- 若者—何をやっていいのかわからない
- 自治会—担い手不足
- CSW—地域資源を活用した新しい仕組みを作りたい

今後は...

・若者がまちづくりに目をむけてくれるような新たなプロジェクトの展開をしていきたい!
(ぶんぶんプロジェクトだけではなく、新しいカタチの地域貢献プロジェクトの立ち上げ)

・BEE FREEが中心となった新しいカタチの公民館をつくっていききたい!
(wi-fi完備、カフェのような空間を設けて勉強ができるスペースをつくるなど、若い世代が集まってくような公民館づくり、地域の人が集まるような場所に)



浦添市まちづくりアカデミー 第2回講座 アンケート結果

1. 今日の講座の感想をお書きください。

- 若者支援サークル BEE FREE の活動紹介は1人の声に耳を傾け手探りで何も無い所から始めようと思われた中心者の思いに感動いたしました。まちづくりといってもやる気のある人の一念が実を結ぶんだなということを感じました。

- 今回も素晴らしい講座ありがとうございました。私と同じ20代の若者が「地域のために」「誰かのために」活動しているお話を聞き、とても感動しました。と同時に私も負けられないなと思いました。これから、私にできること、私ならではのできることを少しずつ実施できたらなと思います。

- Bee Free の取り組みを詳しくご紹介いただき参考になりました。

- 若い2人の活動に私も元気、やる気をもらいました。人とのつながり、ホント大事ですね。ハチミツみんなで食べれるよう期待しています♡

2. グループワークはいかがでしたか。

- グループワークの中で海の名前を考える話がありましたが、私はただこのまちで浦添市にふさわしいティダカンカンビーチと名付けたらどうかと思いました。又、今日活動紹介を聞いて私の住む地域でも人とのコミュニケーションが取れない子供達のために BEE FREE のような活動ができるといいなと思えば実現させたいなと思いました。

- グループワークを通して、参加者の皆様が浦添（わがまち）のことを思い、浦添をよりよくするためにやりたいこと、やってみたいことなど共有できてとても良かったです。様々な案があり、とても楽しかったです。

- 進行・取りまとめは講師（ホスト）がされた方がよいかと思いました。ワークの時間は15分あると、もう少し議論できたかな。

- 職種の違う皆さんの色々な話が聞けたので良かった。

大学の中に地域活動分野があり、それを利用して自治会とのつながりに力を入れることができる

ハチを買うには花が必要だがその逆で花や植物が育つためには、ハチやほかの虫たちの力が必要。ハチが住めなくなってしまう社会は、人間の命も危ない。

（ハチ育ては命づくりにつながる）

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第3回

10月6日(水) 18時~20時
ZOOM開催

第3回講座 『地域課題に気付いた時 その時どうする？ みんなで考えよう！一緒に動き出そう！』

講師： 合同会社 Happy joy ヒトコト専門家 代表社員
幸喜 穂乃 氏



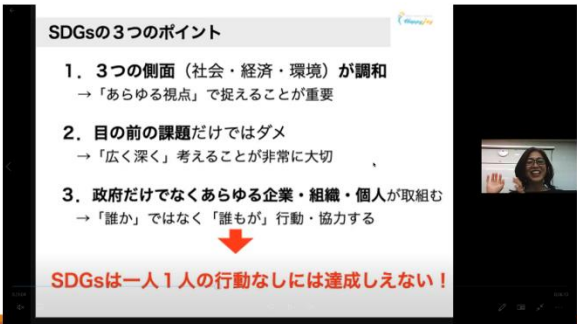
SDGs的視点で浦添のまちの未来を想像し、
未来につながる“今”できることを考えてみましょう！

- 身近な気になること・問題だなあと感じること
- グループ1：生活（食品ロス、貧困）
 - グループ2：環境（生活排水、地球温暖化）
 - グループ3：子ども（居場所、教育、スマホの低年齢化）

グループ
ワークを
しました！



- 何事にもつながりがあるから 広い視点で見ていく。
- その先に何があるんだろうということまで 考えることが重要。
- 想像力をしっかり働かせて、問題だと感じている ことに向き合っていく。
- 身近な気になることを自分ごと化しよう！



1. 今日の講座で学びになったことは何ですか。

・SDGsについてざっくりとしたことしかわからなかったので、詳しく教えて頂き勉強になりました。地域の課題を見つけ、SDGs的視点で未来の子どもたちにつながる“今”を想像し創造することが大切だと感じました。各グループの発表から問題提起も様々いただけたので日々活かしていきたいです。

・SDGsに関して、現在自分が持っている知識に加え、他の側面を知ることができました。

・環境（ゴミ・温暖化）、教育、経済、社会（現代社会とネット社会）、子どもの居場所づくりと、多岐にわたるキーワードにふれ、わずかな時間で思いを語りまとめるという情熱ある皆さんとの出会いは本当に大切だと思いました。この企画を実行するまでの時間と労力を想像するとさらに頭が下がります。そうした思いが帰結した先に「限りある命・資源を活かし、未来を育てよう」という思いを唱え「心くばり」をしていくだけで、自然と環境は変わるのかなと思います。

・SDGsを基本に考えていくと、今自分が考えていることがどこに該当するのかの道しるべになるので、自分の気になるSDGsの項目を掘り下げる必要があると思いました。

・20分遅れての参加で前半聞けなかったのですが、それでも幸喜さんのお話がわかりやすくSDG'sをととても身近に感じ、自分にできることがいっぱいあるんだと思えました。正しいか間違いかの視点ではなく、より良い未来のために、みんなの幸せに向かっていくためのはじめの一步が（途中で切れてしまっています。）

・SDGs、持続可能な社会を創る一員になる。

2. 今日の講座を受けて、やろうと思ったことは何ですか。

・無駄を減らす、なるべくごみを出さないなど一つ一つの小さな事でも、それが未来につながっていることを意識し続けていきたいと思いました。

・身近なコトへの取り組みの強化。新たに何かを始めるということも大切ですが、現状行っていることのブラッシュアップができればと思いました。

・まちづくりアカデミーの存在そのものを、職場や家庭で語ることからはじめようと思います。そのうえで、この感想シートに自分の思いを整理することは大切ですね。「限りある命・自然を活かし、未来を育てよう」まずは、その思いをしっかりと自分の心にすえて、共有できる方々を増やす努力をしていきます。

・幸喜先生のお話にあった、トレードオフの解決法も併せて考えていかなければいけない。

・福祉の仕事をしているのですが、自分の職場でSDGsの視点、考え方で何ができるのかをおもいつくまま書いてみて行動しやすい事から初めてみたいと思いました

・これまで通り、ごみ拾いや無駄な買い物を控え、足元のゴミの減量化を続ける。道路緑地帯の草刈りを続けて、ポイ捨てを減らす。

3. 今日の講座の感想をお書きください。

・グループセッションが増えてきて、参加者の皆さんのお考えを伺える機会も増え、色々な気づきにつながり勉強になっています。同じ浦添市民としてこんな風に一緒に子どもたちの未来について考えを伝えあえる時間、とてもありがたく元気と勇気をいただきます。まだまだ分からないことがたくさんあるので毎回学びに喜びを感じています。皆さんといつかリアルでお会いできる日も楽しみです。

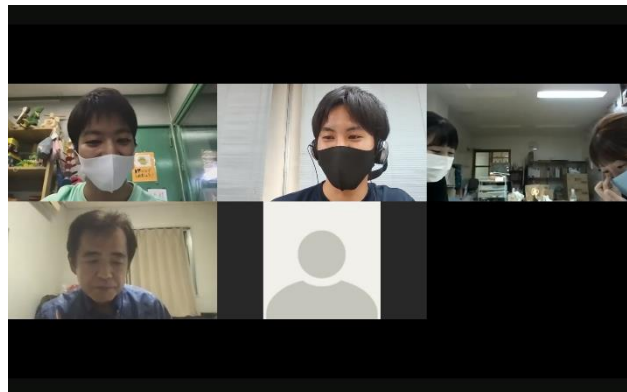
・現代社会において、旬な話題で問題定義していただいたので大変興味深く聞くことができました。

・みなさんと朝までトークしてみたいです（笑）できれば飲みながら（お茶でもOK）

・浦添市がより安心な街になって、地域の大人が未来を担う地域のこども達みんなを守れるようなまちづくりをしたいです。コミュニケーションの取り方が変化していますが、インターネットだけでなく、直接会って言葉を交わすという基本的な交流を復活させる何かがあればと思います。

・とても楽しく学べました。ありがとうございました。

・グループワークで、若い人の積極的な意見にとっても感心しました。



グループワークの様子

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第4回

10月20日（水）18時～20時
ZOOM 開催

第4回講座 『協同・共同・協働 地域と一緒に考え行動する防災訓練』

講師：一般社団法人 まちづくりうらそえ 代表理事
大城喜江子 氏

ひよっこリゲスト：与那原 孝 氏



子ども達が活動する意義：地域課題に向き合うきっかけ

*なぜ防災避難訓練？（きっかけであり手段）

1. 子どもたちに住んで良かったと思える地域にしたいな（愛着と故郷づくり）
2. 住んでいる地域に興味と関心をもって好きになると良いな（意識すること）
3. 地域住民、大人たちの見守りがあるという実感があると良いな（繋がり感と存在感）
4. 子どもたちの活躍の場→チャレンジする（主体性）

↓

帰ってこれる場所がある（居場所）
生きる力と、生き抜く力につながるように！

↓

地域を知って（足元）、課題を見つけ（意識）、行動する（解決策）

↓

活動費：どんどこプロジェクト（助成金）への挑戦
地域散策・福祉体験・避難マップづくり

中学生が地域課題への取組

- * 地域の課題
安謝川沿いの海拔2メートル地域の保育園や住民は、地震等があった場合、小学校やセンターへの避難はどうする？
 - * 児童センターの課題
福祉避難施設として指定されているが、情報もガイドラインもない
- 助成金を活用して地域散策・福祉体験・避難マップづくりに取り組む**
- ↓
- 中学生の「地域あげての避難訓練が必要でしょう！」の声を具現化！！**



「沖縄テレビ 2015年4月7日 放送」



感想

（どう、連携・協力を
得ていくのか？）

『こちらから
顔を出していく。
自分をしてもらう』が
心に残りました。

『きょうどう』とは
地域を知って、
課題を見つけ
行動する。を様々な
人々と連携・協力して継続
していくこと。でしょうか。

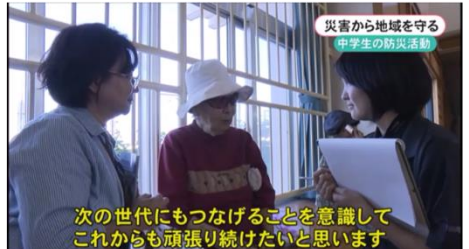
老いも若者も子どもも
一緒になって行うことの
大切さを実感しました。

6年前はそんなに
地域のことを
知らなかった。
森の子と防災訓練に
関わり始めて
少しずつ地域のことを
知ることが出来た。

マンネリ化が現状。
避難訓練だけでなく
自治会を構成している
自治会員（住民）の
意識のマンネリ化が課題

公民館に
とって
大事なことは
若い人が地域を
愛すること。

大人は
子ども達が
地域を
愛せるように
仕掛ける



「沖縄テレビ 2015年4月7日 放送」

1. 「きょうどう」についてイメージがつかまりましたでしょうか。

- 地域を知って、課題を見つけ、行動する。を様々な人々と連携・協力して継続していくことでしょうか。「きょうどう」が具体的になっていきました。
- 大変分かりやすい説明と実演に感動いたしました。中学生が中心になっての防災訓練というのは素晴らしいですね。2000件のチラシを配って400件参加したことはすごいことですね。回を重ねるごとに100%の方々が参加できるようになるのでしょうか。若いも若いのものも子どもも一緒になって行うことの大切さを実感させられました。夜間の防災訓練という発想は大事ですね。災害は昼とは限りませんからね。

2. 今日の講座の感想をお書きください。

- 内容はとても大事でした。意見を述べる事が出来てよかったです。
- 大城さんからの返答、(どう、連携・協力を得ていくのか?についての)「こちらから顔を出していく。自分を知ってもらおう」が心に残りました。ありがとうございます。
- 代表理事の大城喜江子さんの活躍、行動力に脱帽です。私たちの住む港川中学校区でも民生委員とCSWが中心になってボランチュキャンプを行い、その中で防災マップや地域の色々な場所を確認したりということを行ったことがありましたが、そこには中学校区の11自治会の自治会長さんも参加して地域子ども達と触れ合うチャンスをつくって来ました。今年はコロナ禍で行うことはできなかつたのですが、児童館でもカレー作りをしてその中から気になる子どもの発見や家庭を知るきっかけになればということで児童館の職員と民生委員と自治会長さん等と協力して行ってみました。

『中学生と取り組む防災についての様子』



「沖縄テレビ 2015年4月7日 放送」

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第5回

11月7日(日) 10時~13時
場所：なは市民協働プラザ

第5回講座『市民と行政の協働の取り組み なは市民協議会の発足と活動』



講師：饒波 正博 氏 (なは市民協議会)
知念 忠彦 氏 (なは市民協議会)
渡嘉敷 博美 氏 (なは市民協働プラザ)

ひょっこりゲスト：横山 芳春 氏

なは市民協働プラザにて、施設の視察、
なは市民協議会のお二人・なは市民協働プラザ職員、
協働を沖縄で最初に始めた横山 芳春氏 (元那覇市市職員) より
那覇の『市民と行政の協働の取り組み』について
お話を聞きました。

市役所職員と地域住民が
地域の隅々まで一緒に回り
調査をして
『地区ビジョン
(第3次那覇市総合計画の
もとなるもの)』を
作りました。

なは市民協議会では、
活動成果として
『まちづくりおたすけ本』を
作成しました。

地区ビジョンを受けて那覇市は、
基本構想に
『市民との協働におけるまちづくり』を
積極的に進めていくことを位置づけた。

阪神淡路大震災の経験が
基本構想に影響した。



○ 受講者の感想 ○

那覇市の協働のまちづくりが30年近い
時間の蓄積で成り立っていることに
素晴らしいと思いました。
また、継続することの力を実感しました。
成熟した町のあり方だと思います。

○ 那覇市の協働の指標 ○

利用団体の登録者数。委託・共催などの数。
協働大使の数など。

協働の指標は、数だけではなく、
何のために活動するのかを
突き詰めていかなければならない。



「琉球新報 令和3年11月16日 火曜日 掲載」

浦添市まちづくりアカデミー 第5回講座 アンケート結果

1. 今日の講座の感想をお聞かせください。

那覇市の協働のまちづくりが30年近い時間の蓄積で成り立っていることに素晴らしいと思いました。また、継続することの力を実感しました。成熟した町のあり方だと思います。

2. 浦添でできそうなことはありますか。

この浦添市まちづくりアカデミーが浦添の協働の始まりになるかもしれません。過去の受講生や次年度以降の受講生が引き続き交流できる場があるといいと思います。人と人が結びつくことで問題提案、解決の力になると思います。

『第5回講座の様子』



「なは市民協議会の取り組み（知念氏、饒波氏）」

「意見交換会の様子」



「第5回講座 集合写真」

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第6回

11月17日(水) 19時~21時
場所：ハーモニーセンター

第6回講座 『私も一緒に作りたい浦添市！ 市民と行政とともに！』

講師：NPO法人 まちなか研究所わくわく
宮道 喜一 氏



○ ワーク内容 ○

- ・自分が思っている事、気になっている事(課題)
- ・こういう風に変えたい!
- ・私に何が出来る?(取り組みたいこと)

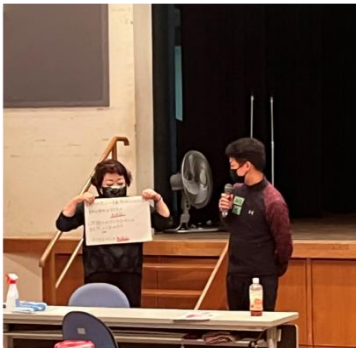
ペアワークで
自分が日ごろ気になっている
課題について深掘しました。



○ 関心のあるテーマ ○

子ども、環境、教育
貧困、生活排水、福祉
食品ロス、公民館活用(若者)

お互いの想いを聞きあって
整理しました。

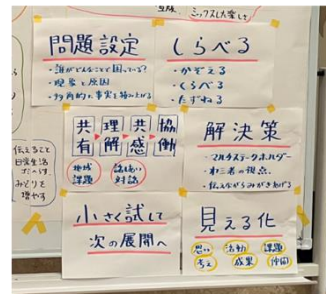


発表の様子



宮道 喜一 氏

受講者の言葉を見える化



活動をする際に
意識する必要が
あること



浦添市 まちづくり アカデミー

※6回

2021.11.17(水) 19:00~21:00
@11-モニ-センター1F

木本 綾 ありさつ

プログラム

- 19:00 オリエンテーション
- 19:20 ペアワーク
- 休憩
- 発表
- まとめ
- 21:00 連絡事項

ペアワーク

自分たちができること
自分たちがつくりたいこと
味わい深い浦添市へ
ワクワクする時間を

自分たちが思っていること
気になっていること (課題)
こういう風に変えたい!
私に何ができる?
(取り組みたいこと)

ペアでお互いに
好きあります

環境 生活排水
貧困 食品ロス
福祉 公民館活用 (若者)

まちづくりプラン助成金
てだこの都市・浦添の
実現
ぶんぶんプロジェクト
(若者支援サークル ビートワラー) / 10万円コース
海の名前から始まるまちづくり
(理法のあるまちづくりを、プロジェクト
実行委員会)

防災に強いまちづくり福祉避難所
(NPO法人ランゴパジョン 30万円コース
「コミュニティ」はらばっキッズ)

舞台や地域に活かそう! 50万円コース
次世代うらおい平和がイデにチャレンジ!
(浦添ゆかいキッズスター)

発表

公民館活用

夏休み期間中のラジオ休む
居場所 あそび 学び

公民館

今の～ これからの～
おじいさん → 公民館ネットワーク
おばあさん → 若者に魅力ある活動
若～人がない → サークル (若者中心)
人材のつ → 地域 (中心) の中心
公民館 + 児童センター

子どもたちのあそび

コミュニケーション
コロナの影響
皆が積極的にあそびたい
できるように

居場所のみけれ

発達障がいの子
ゆいゆい、ボクこれ
行ってみよう
居場所を
の選択肢を増やし
みつけられる環境を

スケーパー

思いやり、気がかるに
スポーツできる場な
ストリートできるスポーツ
ぎあつ浦添に集むたら
中高生の声と
あめりか
今ある場を
1つだけ
いえる
スケパーパーク
暑があめりか、涼が
いいん

キョウペンギンサー あと地 じんなまちできたら?

商業的施設を、
3つ増やせよ
浦添市のシンボルほい
カーニージョーの環境作り
市民みんなで

美しい景観

ちょうちんが2000名以上
MAPがない
わいてるが 減ってない
西海岸のゴミ99%
景観まちづくり
事例があるが
MAP
互版
ゴミ
マップ
マップは楽しい

食品ロス

子ども食堂で利用
コンビニ弁当や売どき
11円マズ
2人分の残り物の活用
買物のし方を
学校での牛乳の活用

環境

自然に生活生態を守る。
車のCO2 ↓ 減ること
生活排水 → 海川の汚染
1人2人 → しろが、かく
伝えること
日常生活
で、
おどりを
増やす

問題設定

誰がどんなことを困っている?
現象と原因
79%角の事実と強み

しらべ

かぞえる
くらべる
たずねる

共有 理解 共感 協働

地球課題 話し合い 対話

解決策

2人3人4人5人6人
- 第三者の視点
- 伝え方がよみがえり

小さく試して 次の展開へ

思い 活動 課題
考え 成果 仲間

浦添市まちづくりアカデミー第6回講座アンケート 結果

1. 今日の講座の感想をお書きください。

- ペアワークの中でそれぞれの発表に学ぶことが多く私にできることが何なのか又やれることやりたいことが見つかったこと又スケボーの場所ができるの良いなというのは私も前々から考えていました。
- 浦添市の問題や私たちができることが見える化してよかった。
- ペアワークで、自分が浦添のために出来ることを話して、文字に起こして、見える化できてよかった。また、皆様の意見も聞けて良かった。
- まとめかたがとてもよかったです。
- みなさんの意見がきけてよかったです。
- 各テーマに沿った、各個人のアイデアが見れておもしろかった。パートナーとなった方とは、同じテーマだが、私とは違うアイデアが生まれて、感銘を受けた。
- たったこれだけの人数でこんなに意見、提案、思いすごい
- 書き、まとめ、ホワイトボードの宮道さんすごい
- テーマの異なる方と話し合ったのですが共通点が多く自分にとってとても学びになる時間でした。
- リアル対面で、浦添市の課題について話げできたので熱が入りました。
- ファシリテーションでのまとめもとてもよかったです。
- 初めての体験だったので、おもしろかったです。
- 質問してもらいながら、自分の考えを伝えることで再度、整理や確認が出来ました。児童センターの活動を色々学べてペアワークを通して学べることが色々ありました。宮道さんに見える化していただき最後にまとめて下さり、更におとしこむことができ、感動しました！！
- 第3回の時とは違うテーマで参加したのですが、自分の思いや考えを2人1組で相手に伝えることができたと思うのでいい経験となりました。また、同じ考えを持った人がいるのだと改めて実感しました。
- 多様な人の多様な考えをまとめる方法が面白かったです。
- 私が浦添市で課題と考えている事の解決に向けたヒントを聞いた。

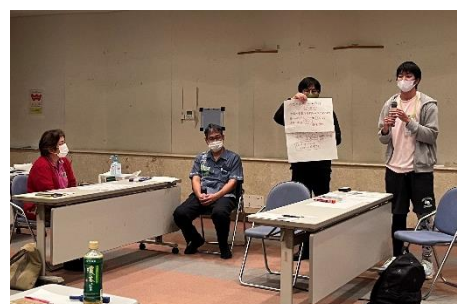
2. 第7回の最終講座に期待することをお書きください。

- 浦添市民の多くの方々に浦添市まちづくりアカデミーのことを広くアピールできることが出来る
と私たちがこれまで学んだ成果が得られるのではと思います。
- 色々な方に本日発表した内容を見て、協力してくれる方がいたらいいです！！
- 小さなことから楽しんで実施できると良い。
- イメージがわからなくて、、、参加が楽しみです。
- 協働（共有、共感、理解）の大切さを再認識できるような会に。
- アウトプットすることで又色々な気づきや学びが得られそうで楽しみです。
- 話したことをうまく伝えられたら良いかと思います。最終ということなので、今までの講座のふり返りができたらいいです。
- どのようなワークになるか楽しみです。
- 市の協働の取り組みに対する本気度。

『第6回講座の様子』



「ペアワークの様子」



「発表の様子」



「ライティング（見える化）」



「フィードバックの様子」

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第7回

12月1日(水) 14時～17時
一部場所：市役所ロビー

17時～18時
二部場所：9階講堂

第7回講座『第6回の講座発表展示・地域活動の相談コーナー』

サポーター：前城 充 氏(与那原町政策調整監)
大城 喜江子 氏 (一般社団法人 まちづくりうらそえ 代表理事)

ひよっこりさん：浦崎 修 氏 (HODおきなわ)



※本庁1階ロビーにて

アカデミーで学んだことを
市民の皆様にお話ししました！



閉講式にて、集合写真

**浦添市まちづくりアカデミー
市民活動クリニック 開催！**

浦添市まちづくりアカデミーでは、
『わたしがまちを輝かせる』をテーマに
私も参画したい浦添市の地域協働の取り組みとしくりについて
学びを重ねてきました。
浦添のまちを輝かせたいあなたの想いを共有しませんか？

浦添の
さういふところ
いいよね！

地域に
私と同じような
想いを
持った人が
いるのかな？

やってみたい
活動があるけど
どうしたら
いいんだろう？

浦添のまちに
ついて
一緒に勉強し
ましょう！

さういふ
活動があったら
参加したい
な... ..

日時：令和3年12月1日(水)
14:00～17:00
場所：浦添市役所1Fロビー (ATM向い)

主催：浦添市 市民協働・男女共同参画課 ☎ お問い合わせ ☎
受託者：一般社団法人 まちづくりうらそえ Tel: 090-2512-3026 (大城)
Mail: u.machiaca.03@gmail.com

浦添市まちづくりアカデミーの受講生コメント★
～市民協働の理解が深まりました～

第1回「子ども協働ってなんだろう？」
浦添市長松本氏と与那原町政策調整監前城充氏を
お呼びして、様々なお話を聞くことができました。
『地域で力を合わせる事の素晴らしさ』
『仲間づくりや繋がりのためにお互いが理解しあう
大変さ』を学びました。

**第3回「地域課題に気付いた時どの時どうする？
みんなで考えよう！一緒に動き出そう！！」**
地域課題に気付いた時、どうする？ということSDGsを題材にし、
今自分が何ができるのかを考えました。
未来につながる“今”を想像しながら
行動していくことが大切だということ
学びました。

**第5回「市民と行政の協働の取り組み
市民協議会の発足と活動」**
那覇市には30年近い
協働のまちづくりの歴史があります。
協働を最初に始めた横山氏、那覇市で長年活動を
続けている『なは市民協議会』の方々から
お話をお聞きすることができました。
継続すること大切さを学びました。

**第6回「私も一緒につくりたい浦添市！
市民と行政とともに！」**
ペアワークの中で、『浦添市の課題は何なのか』
『私にできることは何なのか』
『私がやりたいことは何なのか』
“考え”“伝え”“話し合い”、見える化することで
整理・確認することが出来ました。

チラシを配布し、展示を見てもらいながら今まで学んだことの成果を発表しました。

浦添市まちづくりアカデミー 全体を通しての感想

・参加する中で気づいたことは、楽しくいつもやりたいという思いがあって、ただ忙しくてどうやったら楽しくできるんだろうというのでも同時に考えるんですけど、でもこちらに参加したかったのは、子どもが育った後に、愛されるまちになるといいなという思いが一番強くて、何をどうやったらうまく関わることができるのかなとか楽しくできるのかなというところで、でも話を聞いている中で、やっぱり知れば知るほど、なんかやってみたいねということが生まれてくるので、不思議だなというところがあって、それを自分の価値観がそこにやりたいなとかそういうところにいったら、それをやることで仕事の時間もうまく回せるように実はなっていくみたいなのさういった心の動きとかそれが仕事がより効率的になるなんか不思議な動きを自分の中で発見して、続けながら楽しみながら面白さも発見しながら、今後も何らかの形で関わり続けていって、自分も何かやっていきたいなという思いがいっぱいになったアカデミーでした。ありがとうございました。

・私は本当は始める前に Zoom で開催するというので、パソコンを触ったことがなくて、『今回はキャンセルします。』と事務局に連絡を入れた時に、『宮城っ子児童センターでセッティングしてくれるので、そこで参加してください。』ということがあって、それに甘えて児童館の職員にお世話になりました。今日は参加させてもらって、最初浦添市まちづくりアカデミーって言った時に、浦添市のまちづくりに何か役立てることがあればという気持ちから何かできるのかなということと皆さん参加者から色々学ぶことがあるんじゃないかなということって本当にそういう単純な気持ちで参加しましたら、いっぱい得ることがありました。ぜひ、このアカデミーで学んだことを、また身近なところから自分の足元からそれをしっかり生かして、役立てていきたいなと思いました。

ハチの養蜂の話聞いた時から、『これやりたい』と思って、すぐ主人に『子ども食堂でやりたい』と言い出して、その日なって主人も『ぜひしたいね』ってなって、『したいね』というよりは、『やろうね』になってしまっています。ぜひ、実現できるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

・25年仕事をしていて、7月に定年退職をしまして、広報とかですと浦添がやっていることを見ていました。協働っていうのも正直言って、自分が思っているのと、入ってきて色々聞いていると毎回毎回、『あっ、勘違いしているか』『違ってた』と思いつつ頑張りました。その中で本当にもったいないなと思ったのが、私参加して初めてこういう事をやってらっしゃると知ったんですね。これをもっと知らしめる方法ないかな。広報をちゃんと読んでいるつもりでしたが、見るものと参加するものと全然違う。だから、絶対参加する、出てくるというのが絶対必要なんだなと。やっていくうちに『あっ、行動なんだ』と『動くことなんだ』ということに気付きました。ところがまだ目から鱗状態で何をしようというのはまだないんですが。ありがとうございました。

・私は市の職員として働いています。私は生まれも職場もずっと浦添市で、浦添市で何かできることはないかなと思っていて、小中高と同級生の下地さんから誘われて、ちょうどいい機会だからということで参加することが出来ました。行政という立場ではなくて、皆さんと同じ市民立場で学ぶことが出来ました。また、自分に何が出来るかなというところで第6回のペアワークのところで、一緒にペアを組んだ方と環境の話をしていただいたんですけど、私が住んでいる仲間は景観地域なものですから、そこで緑を増やすような活動が自分にはできないかな？という話をしたら、ペアの方は昆虫が好きな方で、緑を増やして昆虫を増やして、色々な昆虫が集まる環境を作って、またそれを子ども達に見せてそういった教育につなげていきたいとのことで、色々な考えを持つ方がいるんだなというところで、非常に色々な勉強が出来ました。またこういった活動に参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

・私も浦添小、浦添中、浦添高とずっと浦添市で生まれ育って、子育ても今沢岬小学校に通っていたり、ずっとずっと浦添で育っているので、40代を迎えて今まで仕事をしながら自分の目の前の人生ことを一生懸命生きてきたんですけど、子どもが生きる未来が自分たちが今歩いている未来に全部つながっているんだなって、SDGsの視点もいっぱい学ばせていただいたんですけど、本当にそういう事を意識するようになった時にタイミングよく facebook で浦添市まちづくりアカデミーのお知らせが上がってきて、ビビッと来てそこからご縁をいただいて今日まで受けさせていただきました。子ども達と普段接する中でいろいろ私達が見えてきた課題を『どうすればいいんだろう』って思った時に回を重ねるごとに、地域で見つけたその人の課題を自分事にして、じゃあ何が出来るかって考えていこうという一つの言葉とか市長もそうですけども、一緒に受講している皆さんの声掛けとかメッセージとか、自分事のように全部すごく今回入ってきて、回を重ねるごとにどんどんどんどんうらそえが好きになっていたり、未来についてワクワクしてきたり、参加させていただいてこの3か月とっても良かったなって、学びがいっぱいでした。ありがとうございます。この学び、ワクワクを来年にしっかり繋げたくて、『まちづくりプラン賞』に挑戦したいと思っています。

・大変気付くこと、学ぶことの多い充実した講座だったと思います。なのでまた、来年度も同じアカデミーが開催されると思いますので、多くの若い方だったり定年後の特に男性ですかね。の方が受講されて、色々な公共のこととか自分のことを一生懸命やってくられた方こそ皆さんのためにとか公共のことに関わるといろいろと発展していくんじゃないかなということも自分も受講してみたいと思いました。周りの定年を迎えるおじさんたちがたくさん周りにいますから、ちょっと声をかけてこういうアカデミーというのがあるので受講してくださいとか、若者たちも。アカデミーで一番良かったのは平日の夜の時間帯だったので、僕のような日中仕事している人でも参加しやすかったというのもあったので、声もかけやすいかなと思うので、多くの方が受講してっていくことが、次世代が育っていくことが協働につながっていくと思いますので、受講生の一人として宣伝していきたいと思っています。ありがとうございました。

第1回 鼎談テープ起こし

○大城：大学で学んでいたのは、政治や経済だったと思うのですが、福祉の仕事を始めたきっかけは？

市長：なぜ福祉の仕事か。大学時代に、ヒッチハイクでヨーロッパをバックパッカーとして回っていた時に、お金が無くなってしまって住み込みで働かなくてはいけなくなって、飛び込みで働いたところが、いわゆる知的障害をお持ちの方の施設だったものですから、そこで初めて福祉の世界に触れて、それがずっと記憶にあって、大学を卒業して東京で金融系の会社に就職して。その時も金融がやりたかったわけではなくて、何がしたいのかよくわからないままとりあえず東京で勤めながらやっぱり自分のやりたい仕事って何だろうと考えたときに、大学の時にヨーロッパで経験した福祉の世界が懐かしいというかも一回あの世界に行きたいなと思い勉強しなおしました。

○大城：充さんが南風原町でかなり住民参画の総合計画を市民と一緒にやったじゃないですか？どうして市民も一緒にと思われたのかなと思ひまして。

前城氏：総合計画と住民協力関係というのを話す前に。私の公務員人生を変えたことが39歳のときなんです。それまではのほほんと公務員生活を送っていたのですが、琉球大学の島袋純教授（高校の同級生）と再会して、彼は政治・行政のプロなので私にいろいろ質問するんですね。その時彼がする質問が全く理解できなくて、彼は学者のレベルで質問してくるので。恥ずかしくなって。それで、彼から『北海道のニセコというすごい街があるぞ』とニセコを知って、調べてみたらすごい街（当時は、日本の中で最先端。人口6000人。）だった。彼と一緒に視察に行ったんですけど、そこで行われていたのは、徹底的な住民参加・情報共有だったわけです。もう目から鱗でしたね。そのきっかけがなければ、今の私はいない。まず第一に、島袋純と再会したこと。そして、恥をかいたこと。ニセコで学んで、『ああそうか住民参加って大事なんだ』と気づかされて、そこからいろいろあって。タイミングよく係長のポジションにいたので、『よっしゃ！まずはやってみよう』ということで、ニセコをまねてやってみたのが大まかな流れですね。

○大城：南風原町で取り入れるのはなかなか簡単にいかなかったと思うんですが、住民参加というのは。どんな感じでやったんでしょうか。

前城氏：住民って、行政を信用してくれているんですけど、一方で何かあると行政に意見を言ってくるじゃないですか。住民参加といっても公募で40名くらい集まってもらって。その中に割ぐらいは『行政に何かモノ言ってやろう』という感じで来ている方々がいらっしゃるんですよ。でも、これもニセコ町に行ったときに学んだんです。『前城さん、割ぐらいは石を投げる人（行政に対していろいろ言ってくる人）は絶対います。その方々が行政にとっても関心を持っています。この方々と徹底的に話し合ってください。そしたら、この方々は最強の味方になってくれます。』と聞いていたんですよ。

だから、公募の最初の時の会合やった時に、いろいろな意見があって、『あっ、この方々なんだあ』と思って。私の中では、安心感がありました。『いた、いた』って感じで。いろいろあったんですけど、最終的には徹底的に情報を共有してやってよかったということしかないですね。



○大城：福祉のお仕事をしていた時にはいろいろな皆さんと協力しながらの仕事の在り方だったんじゃないかなと思うんですけど、それはどんな感じでしたか。

市長：まあ、福祉の世界もですね。今や福祉の関係者だけで福祉が支えられる時代ではないです。例えば、介護のスタッフだけで高齢者を支えていくことが不可能な時代になってきていて、福祉や介護の世界でも住民を巻き込んだり、家族を巻き込んだり、あるいは近隣の住民の方を巻き込んで支えていくということをこれまでもやられてきたし、さらにこれからもやっていかななくてはならないだろうと思っています。そういった意味では、行政も住民が参加して作っていくという意味では同じようなプロセスでやっていくだろうと思っています。

○大城：市民が参画することでどんないいことがあるのかなとちょっとお聞きしたいのですが。

前城氏：おこがましいんですけど、住民と情報を共有すると住民が育っていく。結局ですね。情報の質と量がやっぱり行政職員と住民でかなりの開きがあるんですよ。総合計画もそうでした。南風原で福祉計画を作った時も行政の方から住民の皆さんにわかりやすく丁寧に何回も説明するんですよ。いろいろな、データとか情報を。そうすると知らないことを知るわけですよ。そうすると興味を持ってくれてだんだん自分の経験値からいろいろな意見をだしてくれるようになってきて。住民は自分で自分のことを、『自分はこんなことが言えるんだ』『私成長してるかも』とを感じるわけですよ。そういう関係性がでてくると、また住民同士がいろいろな意見を言い合ってますね。建設的な意見がでてきて、紆余曲折あるんですけども、最終的にはまとまっていく。

さっき冒頭で言ったように、計画を作っていくプロセスの中で育っていくんですよ。これは職員も育っていくんですよ。逆に。住民だけではなく職員も気づかされるんですよ。視点が違う意見が上がってくるので、『住民の方ってこんな考えもってんだ』というのが出てくるので、何回も何回も最低でも10回はやりましたもんね。だんだんだんだんお互いアシストしあう関係が作られていくのが一番のメリットという感じがしますね。

喜江子さん、一番わかりやすく説明するというのが難しいんですよ。行政用語結構あって、行政マン同士は通じるんですけども。市民からだと伝わらないことが多いんですね。わかりやすく伝えるというのは、すごいスキルがいるんですね。その点でも職員は成長しますね。

○大城：成長がみられるわけですよ。市民も行政も。市長、市民も行政マンも育つというのがあるみたい。市民と行政が育った時に、市長はどんなふうにうれしいのかなと思ったりするんですけど

市長：市民と職員が一緒になって協働してお互いが苦手なところを補いながら、一緒に何かを作っていければ、市長としてうれしいの前に。こんな楽なことはないですよ。いつも、『皆さんで決めていいんですよ』と言うんですけど。逆に市民同士でも決められないことが沢山出てくるんですよ。いつも職員に言っているのが、『私たちが困っていることも市民に全部話さない』と予算的なこととか、行政職員として法律だったり、議会だったり、その他の関係性がすぐ頭に浮かぶもんですから。市民から言われて『そうですね。』と言いながら、心の中では『それ、無理なんだよな。』と思っている人はいっぱいいるんですよ。そうじゃなくて、『実は、素晴らしい話だけど、こういうハードルがあるんです。それをやると、こういう側面も出てくるんです。』ということ、ありのままに話していかないと。職員の皆さんは『どうせ市民にこういう話をしたって、市民は真剣に考えて責任まで負ってくれないしな』という。市民は市民で、行政・市長に言えば何でもやってくれると思っていて、一緒に考えましょうと言いながら、自分のアイデアを全部飲み込んでほしいと思っている方もたくさんいるわけですよ。だから、ここを一つ一つ時間をかけて乗り越えていくためには、市長も市役所職員もスーパーマンではないんだ。お金もジャブジャブあるわけではない。そして一つ一つ議会を通さないといけない案件もある。浦添市だけで、決められないこともたくさんある。喜びとか、夢とか、楽しみだけではなくて、苦しみもハードルもそして限界も住民の皆さんと共有しながら、何かを作っていくというプロセスができればそれが本当の協働だと思います。

前城氏：職員って若くなればなるほど、怖いんですよ。住民の中に入っていくのが。住民は関係なくガガガッと言ってくるんですよ。私ぐらいになってくると、いろいろなことを考えて、言葉も選んでしゃべれるんですけど、喋れませんか。圧倒されます。職員が、住民参加型をやった時に『住民が怖い』といったんですよ。素直に。住民の前で。本音ですよ。『やっぱりそうなんだよな。本心は。』住民が気付いたんですよ。『なんで怖いのか？』『いや、だっていろいろ言われるもん』って。本音で言ったから、住民の皆さんも『あっ、なるほど。』となった。もう一つですね。私が取り組んだ時に、必ず、飲み会をセットにしたんですよ。ワークショップをする公民館の会議室が第一会議室なんですよ。公民館の近くの居酒屋が第二会議室なんですよ。第一会議室に参加した方々が三分の一くらいは流れましたかね。ここはですね。容赦なくお互いが言う場なんですよ。もう本当に口喧嘩なんですよ。『あの時はあんないったけど、本当はこんななんだよ。』さっき市長が言ったような感じですよ。『実はこんなに課題があるんだよ。』アルコールが入るといえるんですよ。これが何回か続くと打ち解けてくるんですよ。やっぱり、飲み会はいいですね。以上。

○大城：市長がお話していた。行政はどうしようというのを充さんが解説したのではないかなと思うんですけど。本音でやってというのを充さんはやられたわけですよ。やっぱり『怖い』と言うのは大変だと思うんですよ。でも、言える場があったからこそつながっていったのではないかと聞いていて思ったんですよ。やっぱり取り繕った言葉では通じない言葉を、第一会議室があってそこで、距離感を持ちながらやってそれで、第二会場ではないんですね。そこも第二会議室なんですね。ざっくばらんに話せる。

市長：そのお酒の力を借りて、でもいいんですけど。充さんが言っていたように市民と職員がもっともっと胸襟を開いて本当にいろんなものが言い合える、本音のトークができるところまでいかないとなかなか本当の協働はできないような気がします。そもそも協働なんかしなくてもできていることはもうやっているはずなんですよね。だけど職員としてもいろいろな限界の中で、気が付いていてもやりたくても手が出せなかったり、あるいは上司から止められていたり、そういった事情があるのが現状だろうと思います。先ほど職員が市民が怖いと言っていた気持ちもよくわかってきたんですよ。僕は逆に市民から、いきなり市長になったから、『なんで市民が怖いのかな』とよくわからなかったんですけど、でもやっぱり市役所に4年8年と努めていくと、職員の皆さんが本当にトラウマのようにいろんな経験をしている人もいます。痛い目にあって、後日上司に怒られたり、後日議会で炎上したり、いろんなことがあってもうそういうことができなくなっている職員もやっぱりいるわけですよ。だから、そこをもう一回乗り越えていけるような。ただ、時代とともに一步步ずつやりやすくなっていると思います。若い職員なんかもどんどん市民の中に出て行ってですね。一緒に議論できていますし。僕は市民の方もだいぶ変わったと思います。今はきちんと私たちがいろんな予算的な限界、いろんなハードルの話をすると『そういう側面もあるんだなあ』ということで、わかっていくのでやっぱり、お互いにいろいろなことを話し合っていてですね、行くのがまず第一歩かなという感じがしますね。

前城氏：今の市長の話聞いて。トラウマを抱えている人がいるんですよ。それからいろんな部署にいろんな方々がいて、市民の皆さんが『ほんとにこれ出来るか？』と思うものも、言ってくる場合があるわけですね。私たちがやった時に、必ず市民の方々に返した言葉が『この問題何ができますかね？皆さんは。協力できますかね？何ができますかね？』と何回も何回も質問してたんですよ。そしたら、やっぱり考えてくれるようになって、『我々だったら、これができますね。』とか『だから行政はこれやって』とか。お互いキャッチボールができるようになったので。そういうのは何回も回数を重ねてやっと言えるようになってきた感じがなと。だから、計画を変えるとか、計画を新しく作る時、ワークショップの回数に僕はすごい比重を置くんですよ。3回以下だったら、もう関係性なんか作れないですね。だから私がやった時は町長にも『10回はやりますから。』ってやったんですよ。もう10回くらいやると意思疎通ができるんですよ。時間も必要なんですよ。もう一つ町長と約束したのが、『住民会議は謝礼払いません』『大丈夫か？』『大丈夫です。思いがある人が集まりますから。情報共有を徹底的にやると参加者の方がどんどん盛り上がってきますから。』って、何も自信もないですけどこうやってできますからって言ったんですよ。それで当時の町長は、『わかった』と言って、やらせてくれたんですよ。無報酬というのが住民にとってすごく良かったなと。対等な立場なので。3回公募し直したんですよ。住民会議は。なぜかという、最初にやったメンバーでいろいろな意見集めて案を作ったものが、『この30名40名で決まったものでしょ』って言われたら参加した人も面白くないので、解散して公募しなおして、最初の方々が半分くらい毎回残ってくれたんです。その中には学生もいたんですよ。その子が言ったんですよ。『前城さん、私たち無報酬でよかった。』『なんで？』『報酬もらったら、気持ち悪い。』気持ち悪いって言ったんですよ。言葉としての感情から、『気持ち悪い』って言ったんですよ。『こんなのもらいたくない』と。対等っていう気持ちがその時あったんでしょね。回数ってとっても大事なんですよ。

市長：回数というか、時間なんでしょうね。それだけ共有した時間なんでしょうね。

○大城：共に過ごして、やっぱり会話を交わすとか共有するとかが大事さなんだろうなと思って聞いているんですけど。昨日、那覇市の100周年記念があって高崎経済大学の櫻井先生をお呼びしてのお話だったんですね、昨日のお話も協働だったんですよ。協働って、例えば企業と企業が協力しあうのが協働ではないよとおっしゃってました。協働って何？って言ったときに、市長も充さんもお話している、お互いが育つであったり、目的を果たすために一緒に話し合いをして、培っていったというプロセスがすごく大事だと仰っていたんですね。なので、やっぱり関係性をしっかり作っていくという大事さの中から、協力して、一緒に働いて、お互いを分かり合っていくところが出るんだろうなということが、すごくよくわかりました。

市長と充さんが仰っているのも、何度も交わしてってことですよ。行政も市民を信じる、市民も行政を信じるというお互いの信頼関係をどう作っていくのかという大事さがあるような感じで、聞いていますけれども。どんな？

前城氏：一つだけいいですか？協働ということと、計画づくりに、市民の皆さんに関わってもらうときに、行政側が絶対に忘れてはいけないことが一つあって。これが、主権者は市民なんです。対等な関係を作っていくというのも大事なんですけど、あくまでも主役は、主権者は市民だということを忘れてはいけないんですね。計画をなぜ作るかということ、主権者である市民がどのようなことを考えているのか。聞く手段として、ワークショップをして、意見を言って、『なるほど市民は、こんなことを思っているんだ』と『こういう町をつくってほしいんだ』というところを、計画に落とし込む。意見として落としこむということは、絶対外してはいけないので、言葉では対等と言っているんですけど、対等じゃないじゃないですか。市民と対等なのは市長ですから。で、我々市長の下で働くスタッフなんです。その位置づけというのは、しっかり頭に入れてやっていかななくてはならない。とても大事なことなんです。ちょうど私が総合計画を作った時に、全国的なブームな言葉だったんですよ。協働という言葉が。その時に間違っただけ解釈が一つ世間で流れていたのが、『市民にやってもらおう』って言ったんですよ。『いや、違うでしょ』協働って。間違っただけ協働が同じ時期に同じように進んでいったので、私たちは協働というのは、主権者が行政に意見を言える場を作って、しっかり声を集めて、計画を作って、それを実行するのが、一緒に実行するのが協働だよっていうところはすごく意識して大事に取り組んでいってました。

もう一つですね。うまくいっているところだけ話したら、まずいんですよ。私ですね。先ほど市長からも話がありましたが、職員の中にはいろんな方がいて、トラウマを抱えている人がいて、そういう方々も一定の割合でいて、そういう方々は私は総スカンでした。私。『なんでやってくれた、こんなこと』だったんですよ。なぜ、わざわざ出向いて行って、住民のみなさんにガガガって言われて、批判されないといけないんだって感じのところがあったので、ある一定の割合の方からずっと2か年間非難でした。本当に精神的に落ち込むくらい、非難でした。これは今でも、苦い経験ですね。だけど、7、8年くらい経ったときに批判していた職員が、『充があの時やったの今わかったよ』と言ってくれたのがすごく救いました。涙が出ました。時間かかったけど、間違っただけはなかったんだって。本当に苦しかったですよ。

市長：少し時間がありますのでね、今日受講生の皆様にもちょっと頭に置いてほしいことがあるんですけど。ちょっと話がずれちゃうかもしれないんですけども、やっぱり市の職員の中にはですね。一定数、はっきり言いますが、心を病んでですね退職していく、お休みになっていく方いらっしゃるんです

けど、その中で共通しているのは、やっぱり市民との間に入っているいろんなトラウマを抱えてしまって、市民の前に立てない、もう市民が来ると声もかけられないという人がいるんですよ。どっちが悪いということではなくて、市民の側にもそういったことも考えていただいて、そういう職員が増えれば増えるほど、我々も職員体制が苦しくなって、市民の皆さんに真摯に耳を傾けたり、時間をかけたりすることがますますできなくなっていく。やっぱり市役所であれ市役所職員であれ、同じこの街に生きているこの街で暮らしている、あるいはこの街で働いている仲間ですから、本当にこの協働というときに職員から見て市民も、市民から見て職員も本当に対等であってほしいと思っています。こういうことを本当にお互いに乗り越えていけると本当の意味での協働になっていくのかなという感じがしています。

○大城：今市長がお話しているのは『市民性教育』につながっていくのではないかなと思います。それってすごく大事なんですね。それにつながる話は休憩を挟んでからそれにつながるところをお話したいと思います。

～ 休憩 ～

○大城：受講生が25人申し込みあったんです。今日一人も欠席なく、25人の皆さんが参加されています。これってすごいことなんですよ。ほんとに。ということは、市民と協働とかですね、一緒にいろいろなことをやっていくときに、興味とか関心を持ってらっしゃる市民がやっぱりしっかりいらっしゃると思うんですね。全員が参加しているのはとても驚きだなと思うので、まずは驚きの、いい拍手ということで。(パチパチパチ)

前半のお話を聞いてということで、受講者の方から『前半のお話で、行政の方も同じ仲間としてという気持ちは、まちづくりにとても大切だなと感じました。』という感想が早速上がってきました。やっぱり、気持ちを一緒にできるということは伝わっているんだなと私もとてもうれしいなあと思いました。先ほどの続きですけれども、市民性教育というのが市長と充さんの言葉の中から共通しているものが出たと思います。私が思う市民性教育というのは『自分たちの地域は、自分たちでできるものはやろう』おんぶにだっこの市民ではなくて、できるものはやるよ。一緒にやりましょうよ。という市民を育てる、一緒にやっていくということの市民の教育が大事かなと思います。市長、充さん、それに対してどんな風に思いますか？

市長：市民性教育といっても市民を教育して育て上げていくというのはちょっと違うんじゃないかな。何が適切なのかといつも思うんですけど。例えば、浦添が好きで好きでたまらないという浦添愛が強い市民がたくさん生まれれば生まれるほど、同じ目標を見据えられると思うんですよ。特に行政、市役所職員というのは少なくともこの街を何とかいいものにするのが仕事の職場なんですよ。一緒に協働してくださる市民の皆様がこの街に対する愛と思いが強ければ強いほど、私たちも一緒に思いを巡らせることができるので、やはりそういったところでも独りよがりならず自分のため、自分の関心があることだけではなくて、この街の全体のこと、あるいは未来のこと、この街の子どもたちの次の世代のことまで考えて、地域愛を共有してそこでしか私たちはつながれないのかなと本当に感じていますね。

○大城：充さんいかがですか？

前城氏：市民性教育を私が言葉として知ったのが、総合計画を作った後のことだったんですね。『こういう言葉があるんだ』って、知ったんですね。Citizenship Education という英語ではそういうんだとね。そこと何がつながったかということ、総合計画って言って最終段階、一年半たったころですよ。総合計画の文言を整理している中で、市民から言われたんですよ。『充さん、この言葉は絶対入れてくれ！』と。自分たちのまちのことを、自分たちで考え、決め、行動するといったんですよ。僕はそれを聞いて、行動するまで入れたんですよ。それが大事なんですよ。それを総合計画の書き出しのところにに入れてくれないかと。感動しましたよ僕。『自分たちのまちのことを、自分たちで考え、決め』ここまではやるんですよ。行動するってことは総合計画に書いたことを、市民としてできるものはやりますよ。という宣言なんですよ。これはすごいなあと思ってですね。これが、この一年半の私たちの中で沸々と市民の中にできたんだという感じがして、その時にその言葉を後々、これが市民なんだ、市民というのはそういうことが言えるのが市民なんだということをイギリスのまちづくりのとある書物で見、Citizenship Education って書いてあったんですよ。なるほど、これが市民性教育なのかって。私は後で知りましたね。

○大城：とっても嬉しいんですけど、と思うのは、この講座を受けて一緒に考え、学びの先にある行動につながっていきけるようにと思って、オリエンテーションの最初のところに入れたんですけど、それが一致したのですごくうれしいなと思っています。

前城氏：喜江子さんもう一ついい？これは与那原での取り組みの話なんですけど、去年から与那原はALD 関係の取り組みをトヨタ自動車さん含め進めていて、これと並行して知念高校生と沖縄女子短期大学の学生に、SDGs for school ということで学びの場を提供して、社会教育としてやっていたんです。この学びをしている中で、彼らは課題を見つけて、解決策まで見つけて、提案まで町長にやっていたんですね。彼らはその次のステップとして、地域電力会社を立ち上げたいと昨日プレゼンしに来たんですよ。その時に、彼らが『なぜやりたいか』ちゃんとプレゼン資料の中に書かれているんですよ。新電力会社で、上がった収益を私たちが提案した課題解決に使いたい。そのために、この思いに賛同してくれる地域の企業の方々に説明に回って、そして賛同を得て会社を立ち上げるというスキームを言ったんですよ。『わあ、これすごい』と思って、私いったんですよ。『みなさん、市民になりますよ』って、市民とはこういうことですよと説明して、いやあびっくりしましたよ。こうやって、学びの場ってすごく人を変えるなと思って、そのために市民性教育とか、社会教育っていうのは大事だよな。っていうのを昨日も思いました。以上。

○大城：私も社会教育畑から始まった地域づくりなんですね。やっぱり、市民がいろんなのをやりたいんですよ。社会に参加したい。でも心の中で思っているいろんな思いはあったかい言葉がいっぱいなんですけど、出てくる言葉が乱暴になってしまったり、批判のような感じになったりするのも結構あったりすると思うんですけども、さっき充さんが一番最初のところで言っていた批判とかいろんなことを言っている、本当は思っている、大事にしたい、この地域を大事にしたいんだよねと興味

関心があるからどうにかしようよと、なので、本当は心の中にあるあったかい言葉がそのまま出せるような感じになると関係はとても作りやすいんだらうなと思ったりします。市民性教育というのは、私も基盤にあるなと思うのが、市民が育つ行政が育つということで一緒にいろいろなことができていく。そして、信頼関係を作っていくというのはすごく大変なんだらうなと思ったりするところなんですけれども、よく、充さんも市長も、すごく地域のことを人のことをとても考えてらっしゃると思うんです。じゃなければ、別に難儀しなくてもいいじゃないという風になって、充さんは充さんで多分動かないだらうし、市長も市民でいればどうってことないかもしれないことを市長になったというところを考えるとやっぱり、地域をどうにかしたいという思いがあるからだと思うんですね。よくしたいと思う気持ちがあるから、一生懸命動いて、変化をさせて、挑戦していくのがあるのかなと思って私、聞いていました。それで、市長も協働というただ協力しあうだけではなくて、分かり合って一緒にやっていくということがとても大事じゃないかということをよくわかっていらっしゃると思っています。なので、これからどんなふうに。資して演説ではないです。(笑) 職員ともですけども、市民ともですけど、どんなもの・ことができればと考えていますか？

市長：これを受講している皆さんは、市民協働とかまちづくりに関心がある人たちだと思っているんですよ。その時にいろんなことを考えるんですけど。今日ちょうど充さんがいるのでいい機会なんですけど、僕皆さんに申し上げたいのは、皆さんが市役所あるいは地方自治体と一緒に何かまちづくりをやりたいと思ったら、あなたの町の前城充を探すことです。と僕は思っているんですね。充さんのような人がいるはずですよ。あるいはいなければ、充さんの素みたいな人がいるはずなんです。その人たちを前城充風に育て上げていくっていうのは、僕は協働の一つのわかりやすい一つのステップなのかなと思っています。ですから、何か市民の皆さんがこういう協働をして、こういうまちづくりをしたいと思ったときに、ただ闇雲に声を上げるだけじゃなくて、まず具体的にですね、あなたのまちの。あなたの前城充を探す、あるいはあなたのまちの充を育てていく。そういうことをですね、ぜひやってもらいたいなと思っていますが、ここで僕は充さんに質問があるんです。浦添の前城充を作ろうっていう話をしていますが、実際当事者として『結構前城充つらいんですよ』というそういう経験は？

前城氏：30代・40代はなかったですね。突っ走ってきたから。で、40代後半くらいから物心ついて、『よくやった』って感じで。だから、浦添市役所の職員も30代40代の方は突っ走ってくださーいと言いたいですね。

市長：先に突っ走った前城さんとして、今後第2・第3の前城充にこんなところは注意してね。俺こんなところ苦労したよというのはありますか。

前城氏：一番大事なのは、時々振り返ってですよ、振り返って。さっき批判があったって言ったじゃないですか。あの時ちょうど振り返って、誰もいなかったと思います。職員。突っ走りすぎたっていうのもあります。で、もう一つ要因があるんですよ。大きな要因なんですけど、私の後ろ盾は当時の城間俊安町長でした。もう何やってもやれとしかいいませんでした。思うとおりにやれ、俺が責任持つ

からやれと。これとっても大事ですよ。市長大事ですよ。

市長：わかりました。第2・第3の前城充ができるように、私は第2の城間町長として頑張ります。

前城氏：私、島袋純先生と再会してスイッチが入ったと話したじゃないですか。会ってなかったら今の私いないんですよ。職員も何人が聞いているので、言っておきたいんですけど。転機は必ず来るんですよ。私、役場に入った時に動機不順でしたよ。土日休み、5時に帰れる。これでしたから。本当に。だけど、39の時に島袋純先生と会ってスイッチが入って今の私があって。そこで、自分を変えられるか変えられないかはもうその人次第ですよ。そして、時間が来る前に今日この本紹介しようと思って、持ってきたのがあって、受講者の皆さんにこれ読んでほしいなという本が一つあるんですけど、紹介していいですか。

○大城：どうぞ、どうぞ。

前城氏：田中元子さんという方の本です。後でまた事務局から流してくださいね。この方、もう私の概念を覆してくれた方。この本が届いたのが、3日前。なぜこの方の本をこの方を紹介したかという、先週与那原町の木工建築家の方と話しをしに行ったらその方が私に言ったんですよ。『私、自分の技術を生かして、地域にある空き屋敷をリノベーションしてまちづくりをしたい』って言ったんですよ。『えっ、なんでこんなこと考えたの?』『いやいや、こういう考えをした田中元子さんという方がいて』と。その時に初めて田中元子さんという方を知ったんですが、私がなぜびっくりしたかということですね。公共って普通自治体がやるじゃないですか。市町村が。公共＝市町村の仕事。でも、この方は違うんですよ。自家製公共づくりという言葉で自分で公共空間を作っているんですよ。この発想すごいなと思ってですね。でもまだ本も半分も読んでいないんですけど、もう面白い。この人沖縄に来てもらおうと思っています。こういう書物から考えが出てくることもあるので、ぜひぜひ田中元子さんの本は読んでほしい。『マイパブリック』ですよ。後でまた事務局の方紹介してくださいね。



○大城：今回ですね、充さんと市長に入っていて、特に流れとか大きなことを決めなかったんですよ。なぜかという、たくさんいろんなものを持ってらっしゃるので、話の中から引き出しできるんじゃないかなと思ったんですね。それと、やっぱり協働というときに、企業間でやるから協働ということではなくて、理解しあうというところで、昨日的那覇市の100周年記念で櫻井先生が『行政と市民がなぜ一緒にやる必要があるのか。本当に必要課題が多様化して課題が本当に深刻になって

きている。そうなったときにやっぱり、行政だけではなくて、市民だけではないというものが一緒にやりましょうということに繋がっている。確かに、お金も大事ではあるんですけど、それだけの問題ではなくて、協力し合いながらやらないといけないというところまで来ているんだ』と仰っていました。ほんとにそういうところなんだなと実感しながら聞いていました。充さんが、住民自治、住民を参画してっていうときには、市民がしっかり行政のことも知ってということがあったと思うんですね。行政も伝えて、市民も伝えてという大事さの部分があったんじゃないかなと思います。今日ですね、いろんな職種の方がいます。行政職員もいます。多分、主婦の方も。受講生の中に、『締め切りがもう終わったんですけど、自分達の子どものことを考えると、やっぱりいろいろ考えたいなと思うんですけど、参加できませんか。』というお言葉もありました。それはすごくいいなと思って、事務局の若い子たちと『ぜひぜひ入ってもらおう』と。それすごく素敵ですよ。

～質疑応答～

質問1 『行政の方たちと接するとき日ごろからできることがあれば教えてほしいです。』

市長：難しい質問ですね。端的に思い浮かんだことだけを言いますが、行政職員もいろいろなものを抱えていて大変なのは事実なんです。ですから、行政職員の皆さんが例えば『この人と組んで、この人が動いてくれることで自分少し楽になるな。』って思わせられるかどうかですね。逆に市民が来て、協働することで、『またなんか余計な事増えちゃうな』って思うと、どうしても二の足を踏んでしまいますので、逆に行政がやろうとしていること、あるいはうまく手が届かないところを皆さんにフォローしていただけるんだというのがわかれば、職員も一緒に一歩踏み出していこうという気になるのかなという感じがしています。市役所職員にとってこんなプラスがあるということ、皆さんの方で示していただくと、一緒に協働しやすくなるかなという感じがいたします。

前城氏：今市長がお話したところと被ると思いますけども、何かやりたいことがあって、それを『私はこれをこういう風にやりたい』ということをお話されるような方がいれば、その方と信頼関係を作ってください。入口をしっかりと作っておくのがとても大事で、そうすると次の方が『だれか紹介して』となった時に、職員が紹介するともう信頼が出てくるので、そんな感じで繋がっていくというのが大事なかなと思います。それを積み重ねていくと次の計画づくりの時に呼ばれたりするので、そしたらもう関係ができていますごく入りやすいし、安心かなと思いますよ。

質問2 『浦添市もSDGs推進する中、企業及び市民の取り組みは、どれくらいの広がりがありますか。本まちづくりアカデミーは住み続けられるまちづくりをテーマに沿ったものを考えられるが、その他の項目も含めて。』

市長：今日は正直にお答えしますが、SDGsというのはいろいろなところで取り組みがされていますけれども、じゃあ具体的な施策の中で今落とされて、企業とのコラボレーション等も含めて、進んでいるかというところはまだまだ途に就いたところかなという感じはしています。ただ、SDGsとい

う基本的な考え方は皆さん共通して持ち始めていますので、何かあればこれからもSDGsの時代だから、環境負荷の問題であったり、あるいは貧困の問題なんかにしても、取り組んでいけると思いますが、まだ大きく具体的には進んでいないのかなと思います。これからはより一つ一つを具体的な政策の中で落とししていく必要があるだろうと思っています。

前城氏：SDGsが私の中で知って行動を始めたのが3年前です。その時はほとんどの人が知らなかったですね。ちょうど南風原から与那原に移ったところです。ほとんど知識がなかったです。あれから2年たって、どこが変わったかという、学校が変わりましたね。学校の指導要領に去年から入っていますかね。もう子ども達がSDGsを言うようになりましたね。びっくりしました。だから、これから子ども達から学ぶような一年になってくるんじゃないかな。それで、企業の方も去年あたりから結構関心を示していて、私の方によく声をかけてくるようになりました。それで、やっぱり一番遅いのが行政かなという感じはしますけど。まあ、追々行政の中にも浸透していくのかなと思います。ただ、行政がやっていることはSDGsに関係あることですから。ほとんどつながっていますよ。

○大城：案外気づいてないだけかなと思ったりするんです。そのSDGsというのはですね。なので、普段にずっと行われていることに細かく気づいていくっていうのがですね、そのSDGsに繋がっていくのが大きいんじゃないかなと思ったりするんですけど。生活を大事にですね。

質問3 充さんにお尋ねしたいのですが、『南風原で住民会議で協働を作ったとあって、3年前に与那原に行ったなかで、与那原での協働の取り組みというのは、どういう段階なのかお聞かせください。』

前城氏：先ほど、学生の話をしました。知念高校と女子短期大学ですね。それをこれまでと同じような方法で取り組んできて、成果が出たんですよ。でも、一般の町民との協働・住民参加を見たときには、やっぱり南風原ほど経験を積んでいないなというのがあります。町民も行政も。総合計画の作り方からしても回数をそんなに踏んでいないことも分かったし、作られている中身を見ても、やっぱり南風原でやってきたものとボリュームが違うというのがあるので、次2年後に見直しがあるので、その時にいろいろ町民の皆さんと参加のシステムを整えていこうかなと今考えています。ただやっぱり、学生を見ていくと変わっていくというのは見えてくるので、やっぱり一緒だよなと。気づいていって、自分で自分を変えていっているのが見えてきているので、やっぱりこの手法は間違いないんだよなということがわかりました。

質問4 職員の参加状況というんですか。市民との信頼関係状況というのも教えてもらってもいいですか？

前城氏：ソーシャルキャピタル（社会関係資本）という視点で行くと、与那原はすごいと思います。なぜかという、やっぱり大綱曳がありますよ。これ、どこもまねできないですよ。やっぱり町民プライドがあります。これはどこの市町村にも多分負けないと思います。財産ですね、その与那原町が

持っている脈々と続いている伝統行事から生み出されているちびっこプライドがある。その行事には、職員が必ず参加しているので信頼はあるわけです。これは財産だと思いますね。

○大城：ありがとうございます。時間になるので、市長も1分、充さんも1分、協働ってほんとに、市長が思う協働ってなんだろう？充さんが思う協働って何だろう？というのを最後にお話しただければありがたいです。

市長：本当にこれは難しい問題で、協働って何だろうと考えるんですけど、自分流に言えばこのまちが大好きな人たちが一人でできることって知れていますので、本当にこのまちを何とかしたい。本当にこのまちが大好きで大好きでたまらないという人たちが集まった時に起こる大きなエネルギーが本当に協働の喜びだと思いますし、協働のやりがいとかですね。そういった意味だと思うんですよ。必ずしも協働というときに、行政職員と市民という形ではなくてですね、市民同士でも起こるし、3人4人のグループで何かまちづくり、このまちのために、このまちの未来のために何かを行いたいとすればですね、それは協働だと思っているんですよ。その中でまた、市役所職員が入っていくあるいは外からの人も入ってくる。老若男女が集っていくことで本当にまちができるのかなと思っています。ですから、これからが本当に自分のまちが好きで好きでたまらない人。『わったー、うらしー、まーんかい、まきらんどー』っていう人たちをたくさん、たくさん作っていけばいいまちができるんだろうという風に思っています。

○大城：はい、ありがとうございます。では、充さんいかがですか？

前城氏：私も市長と同じような考えで、協働というところを最初に持ってくるとこれに向かっていくのはかなり難しいので、回答ってないから難しいので。私の中で、私のモットーというのがあるんですけど、参加している皆さんにも言いたいんですが、『まずは動け！そして、考えろ！』まずは、動くことです。あとで考えなさい。逆だったらですね、絶対上手くいかないです。考えて、考えて、今かな？タイミング今かな？してたら、逃してしまいます。だから『まずは、動く、そして考えろ』なんです。これは、60点式と私。60点式ね。皆さん90とか100考えて動くんですけど、もう時期過ぎてますよ。もう、50点50%くらいから、もう動けと。それを頭の片隅に入れて、いろいろ動いてみてください。そしたら必ず、いいことがまっています。

○大城：はい。ありがとうございます。あっという間に時間が来ました。市長も充さんもですけど、やっぱり行動につなげているというのが大事なかと本当に私も聞いていて思いました。やっぱり、住んでいるところって好きですよ。でなければ、行動に繋がらないんじゃないかなと。行動するためにやっぱり積み重ねてきて、それを長年やってというのがあっていいかなと。なので、参加して協力し合いながら、一緒に考えてコミュニケーションを交わして、『じゃあ地域をどう作っていくか』ということをやったり市長も充さんもやってらっしゃることだなと聞きながらすごく思いました。なので、これからも発展していこうなという風に思いました。ということで、今回の鼎談を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

(趣旨)

第1条 この要綱は、まちづくり生涯学習と市民協働の推進を図るため、市民が市民協働に対する理解をより深め、その取組に必要となる知識及び手法並びにその実践についてともに学ぶ講座を開設する浦添市まちづくりアカデミー(以下「アカデミー」という。)の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(講座)

第2条 アカデミーの講座(以下「講座」という。)は、定期講座及び公開講座とする。

2 講座の内容は、次に掲げるものとする。

- (1) 市民協働に対する理解をより深め、その取組に必要となる知識及び手法に関すること。
- (2) NPOとの市民協働の実践に関すること。
- (3) その他まちづくり生涯学習と市民協働の推進に資すると認められること。

(対象者)

第3条 講座の対象者は、本市のまちづくり生涯学習及び市民協働に関心のある者とする。

2 市内に住所を有しない者が定期講座の受講を希望するときは、本市のまちづくりに取り組む意欲のある者を対象者とすることができる。

(定期講座の受講手続)

第4条 定期講座の受講を希望する者は、次の事項を記載した受講申込書を市長に提出するものとする。

- (1) 氏名
- (2) 生年月日
- (3) 住所
- (4) 電話番号及びメールアドレス
- (5) 講座で学びたいこと及び市民協働により取り組みたいこと
- (6) その他受講にあたって必要な事項

2 市長は、前項の受講申込書を提出した者が前条の要件に該当すると認めるときは、受講を決定するものとする。

(受講料)

第5条 市長は、アカデミーの運営に必要な経費の一部を受講料として徴収することができる。

2 受講の決定を受けた者(以下「受講者」という。)は、受講料を市長が指定する日までに納付するものとする。

3 受講料は、受講者が講座を受講しない場合においても、返還しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(受講決定の取消し)

第6条 市長は、受講者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、受講の決定を取り消すことができる。

- (1) 受講者が受講料を納付しないとき。

- (2) 虚偽の申込により受講の決定を受けたとき。
- (3) 他の受講者の迷惑となる行為のあったとき。
- (4) その他受講の決定を取り消すことがやむを得ない事情があるとき。

(受講証書の交付)

第7条 市長は、定期講座の受講を終えた者に対し、受講証書を交付するものとする。

(実施報告)

第8条 市長は、アカデミーの実施状況について、適宜に、浦添市まちづくり生涯学習推進本部及び浦添市まちづくり生涯学習推進協議会に報告するものとする。

(学長及び運営支援サポーター)

第9条 アカデミーの学長は、市長をもって充てる。

- 2 学長は、講座に参加することができる。
- 3 市長は、アカデミーの運営を支援するため、運営支援サポーターを置くことができる。

(庶務)

第10条 アカデミーの運営に関する事務は、市民部市民協働・男女共同参画課において処理する。

(委託)

第11条 市長は、アカデミーの運営の全部又は一部を委託することができる。

(雑則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、定期講座の期間、定員、内容、受講手続及び受講料の額並びに公開講座の内容その他アカデミーの運営に関し必要な事項は、その都度、別に定める。

附 則(令和元年9月30日市民部長決裁)

この要綱は、令和元年10月1日から施行する。

附 則(令和2年3月9日市民部長決裁)

この要綱は、令和2年3月10日から施行する。

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー定期講座実施要領

令和3年3月19日市民部長決裁

この要領は、浦添市まちづくりアカデミー実施要綱(令和元年9月30日市民部長決裁)第2条第3項、第5条第1項、第6条第2項及び第12条に基づき、令和3年度まちづくりアカデミーの定期講座(以下「定期講座」という)の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

1 期間

定期講座の期間は、令和3年8月から同年12月までとする。ただし、やむを得ない事情が生じたときは、期間を変更することができる。

2 テーマ、目的、成果目標

(1) テーマ

「わたしがまちを輝かせる」

※地域の抱える課題を、住民自らが解決に向けて動くことで、まちづくり協働が活発になり人もまちも輝く。

(2) 目的

- ① まちづくり協働に必要な実践的な知識及び手法を知ること。
- ② 市民の視点で地域を知り、課題解決に向けて実践できるようになること。
- ③ まちづくり協働に取り組む者と連携することができるようになること。

(3) 成果目標

- ① 受講した市民が協働によるまちづくりに積極的かつ効果的に関わること。
- ② 受講した市民が地域の課題を自らの問題として捉え、まちづくり協働に取り組むことができるようになること。
- ③ まちづくり協働を理解し、取り組む市民の連携が構築されること。

3 講座の運営

- (1) 講座の運営は、浦添市まちづくりアカデミー実施要綱(令和元年9月30日市民部長決裁)第10条に基づき、委託により行う。
- (2) 委託の内容については、別途、仕様書により定める。

4 講座の日時及び内容

定期講座の日時及び内容は、仕様書に基づき、委託事業者と協働して定

める。

5 受講手続

受講申込書の様式、提出方法及び提出期限は、仕様書に基づき委託事業者と協働して定める。

6 受講料

受講料は、5,000円とする。

附 則(令和3年3月19日市民部長決裁)

この要領は、令和3年3月19日から施行する。

